

NEWS 病院ニュース

2011年1月 第24号 (年4回発行)

主な内容

- 1面 ●県内初 キッズ手術体験セミナーを開催
●新年のご挨拶
- 2面 ●クリスマスイルミネーション点灯式
——ヒュギエイアの庭ほか3カ所がロマンチックに
●ディズニー親善大使 小児病棟訪問
●患者さんの声
- 3面 ●河野病院長が園遊会に出席
●<ミニニュース>クリスマスコンサート/病院でアートをつくろう
●<インフォメーション>乳がん患者さんのための学習会
- 4面 ●<フリートーク>診療放射線技師長 樹田 喜正
●<亥鼻むかし・昔>⑩ 千葉氏の本拠地・千葉城 その②
●<トピックス>今年のスギ花粉症対策



千葉大学医学部附属病院

〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1
TEL 043-222-7171(代表)

<http://www.ho.chiba-u.ac.jp/>



キッズ手術体験セミナーを開催 市内の小中学生の皆さんが外科手術を体験しました



参加者とスタッフ一同でセミナー終了後に記念撮影

平成22年11月6日千葉大病院にて臓器制御外科の宮崎勝教授の提案で、深刻な医師不足の中、最近特に志願者が減っている外科医の仕事について理解を深めてもらうと、「キッズ手術体験セミナー」を県内の医療機関として初めて開催しました。市内の小中学生32名が参加し、医師と看護師の説明を受けながら人工皮膚の縫合やシミュレーターでの内視鏡手術、心臓マッソーシ、超音波凝固切開メスを使った切開など外科手術の基本を体験しました。

手術室では、本物の手術着と滅菌手袋を身につけ、鶏肉をヒトの体に見立てて超音波凝固切開メスでの執刀を行いました。参加した小中学生の皆さんは、緊張した面持ちながらも、一様に眼を輝かせ、「大変な作業だけれど、人のために役立つ」「体験できないような手術体験をして手術に興味がもてた」などの貴重な感想をいただき、意義深いセミナーとなりました。



緊張の面持ちで皮膚の縫合。マンツーマンで手取り足取り指導



超音波凝固切開メスを使って切開を体験する小中学生



手術室で外科医・看護師と共に手術体験



「新年を迎えて」 高度医療と安心の医療

病院長 河野 陽一

皆様、新年明けましておめでとうございます。今年も千葉大学医学部附属病院は、優れたそして安心の出来る医療を提供いたします。

この冬もインフルエンザの流行が心配されています。昨年は大学病院における院内感染の管理が社会的にも注目されましたが、大学病院には感染症に対する抵抗力が低い重症な患者の方が多く、感染症対策は本院にとりましても最重要課題の一つです。本院は、感染症対策に力を入れており、早くから感染症管理治療部を立ち上げました。感染症管理治療部は、院内感染の管理をはじめ感染症に関するすべての問題に取り組みしており、安全な医療の一翼を担っています。

本院は現在、拡充整備計画であり、患者の皆様にはご不自由をお掛けしてまいりましたが、昨年夏に始めた「にし棟」の改修工事は、この3月に終了し、4月より「にし棟」は完全稼働を開始します。その後、新しい「外来棟」の建設に移りますが、新外来棟は、現在のバス停のあたりにまでせり出した建物になりますので、外来棟ができませんと病院前の駐車場は使うことができません。この外来駐車場の問題については、立体駐車場を拡張し対応する計画を進めており、新たな立体駐車場が完成すれば駐車場スペースは現在より大きなものになります。このところ工事続きで皆様にはご迷惑をお掛けしておりますが、より充実した医療および療養機能を備えた病院として整備しておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

千葉大学医学部附属病院のもう一つの重要な役割として、地域医療の中核病院としての活動があります。千葉県の医療機関や行政機関との強力な連携ネットワークを基に、昨年より在宅医療支援問題にも取り組んでおり、在宅医療を担当する医師や看護師等の育成計画を進めているところです。職員一同、患者の皆様の健康を守るという責務を全うするために邁進してまいります。今年も皆様にとつて住い、一年でありますようにお祈り申し上げます。

クリスマス イルミネーション

ヒュギエアアの庭ほか3カ所がロマンチックに
点灯式

昨年12月1日、「千葉大病院ライトアップセレモニー」が行われ、詰め掛けた多くの観客の皆さんから喝采を浴びました。

「千葉大病院クリスマスイルミネーション」は、12月1日(水)より1月10日(月)の期間、LED総計約1万8千球を使用し、院内3箇所で幻想的なイルミネーションが点灯されました。病院内は、一気にロマンチックなクリスマスの雰囲気

に包まれ、患者さんやお見舞いの方々の癒しの空間として好評をいただきました。

点灯式は、病院正面玄関下の噴水広場の「ヒュギエアアの庭」で病院長の「地域の皆様や患者さんに親しまれる病院でありたい」とのあいさつで始まり、病院長、看護部

長、同仁会理事長の3名が点灯スィッチを押しました。

ヒュギエアアの庭をはじめ、院内各所に設置されたイルミネーションが一斉に点灯、患者さんやご家族の皆さん、病院職員を美しい幻想的な光が包み込みました。季節感あふれる病院づくりは、患者さんに夢や希望を与え、円滑なコミュニケーションづくりの場としても役立っています。このような季節イベントで、これからも職員一同、私達の病院が皆様に身近に感じられるよう努めてまいります。



ディズニー親善大使が 小児病棟でメリークリスマス!

入院中の子どもたちを元気づけようと、東京ディズニーリゾートからディズニー親善大使のお姉さんと一緒にミッキーとミニーが小児病棟に遊びに来てくれました。

ミッキーとミニーはクリスマスソングに合わせたダンスのあと、病棟内の会場に集まった子どもたち一人ひとりと握手したりキスしたりしながらクリスマスプレゼントを手渡し、病室から出ることができない子どもたちには病室までプレゼントを届けてくれました。

クリスマスのこの日、子どもたちは大喜びで特別なひと時を過ごすことができました。



皆様の声にお答えします

患者さんの声

【感謝の声】

■他院より転院しましたが、最初に感激したのは先生、看護師さんの優しさでした。辛かったものですが、優しさにつれ泣いてばかりじゃありません。先生や看護師さんがよく話を聞いてくださいます。心から病んでいるものですから、聞いてくださるだけで安らかになります。

またお食事もお米もおいしく、病院食としては最高だと思います。A管理栄養士さんの教育指導も、丁寧でよく分かりました。千葉大病院に入院できてよかった。心より皆様に感謝しております。

■千葉大病院に通院するようになって、11年目に入ります。いつも心を明るくしていただけなのは、入口のお花です。その季節に合った素晴らしい心のこもったお花がいてあります。病を受け止めながらも、その日の体の流れが変わりますので、このお出迎のお花には、いつも元気付けられます。

Q 病院の車椅子を利用している。もし車椅子に座るときなどに転んだら足が悪くて立ち上がれないかもしれないので、車椅子の貸し出し場所に職員が立って、患者の動向を見てくれれば良いと思う。

A 貴重なご意見をありがとうございます。当院では職員数に限りがあり、車椅子の置き場所に人員を配置することができません。ただし1階玄関外に警備員が一人と玄関内側にボランティアの方がおりますので、来院した際にどちらかの者にお声を掛けていただければ幸いです。今後ご理解と一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

Q コンビニをもっと増やして欲しい。タオルが欲しかったが売っていなかったので入荷して欲しい。

A 貴重なご意見をありがとうございます。ご要望のありました商品は、セット商品での取り扱いがございましたが、ポディタオル単体の取り扱いはなく、早速、取り揃えさせていただきます。尚、今後ご希望の商品がございましたら、お気軽に当店スタッフにお声掛けください。できる限りご要望にお応えさせていただきます。



河野病院長が園遊会に出席



毎年、春と秋の2回、赤坂御苑で催される宮内庁主催の園遊会に国立大学病院長会議の代表を務める河野病院長が平成22年10月28日の秋の園遊会に招待されました。

全国42の国立大学病院を取りまわって進めた臨床医学の発展、高度医療の提供、さらには地域医療への貢献など、国立大学病院に期待される役割を果たすための様々な取り組みが評価され招待されたものです。

当日はしつとりと冷たい雨が降っていましたが、天皇皇后陛下は、衆・参両院の議長・副議長、議員、内閣総理大臣、国務大臣、最高裁判所長官・判事、その他の認証官など立法・行政・司法各機関の要人や都道府県の知事、議会議長、市町村の長、議会議長、各界功績者それぞれ配偶者約2,088人をお招きになり、親しくお話になりました。皇太子同妃両殿下はじめ皇族方が出席されたほか、各界功績者の中には、千葉県出身の宇宙飛行士・山崎直子氏なども出席されていました。

mini news

クリスマスコンサート2010

●病院ロビーが華やかに

昨年12月16日の夕方、毎年恒例の催しとなっているクリスマスコンサートが開かれました。

今回も、千葉大学亥鼻キャンパスの学生を中心としたオーケストラ「千葉大学なのはな音楽部」により、「美女と野獣メドレー」や「オペラ座の怪人」など7曲が、美しく迫力のある音色で奏でられました。コンサート会場となった外来待合ホールでは、お集まりいただいた多くの患者さんやご家族の方々に、素敵なクリスマスのひと時を楽しんでいただきました。



教育学部学生と患者さんによるモニュメント制作

●病院でアートをつくろう

病院をもっと明るく、心がほっと和む空間にしようとして千葉大学教育学部の加藤修教授と学生が中心となり、昨年12月、患者さんと病院スタッフがひがし棟1階にある中庭に展示するアート作品を製作しました。

この取り組みは、今回で3回目となり、千葉大病院に入院する患者さんやご家族の方に、プラスチック製のコップに絵を描いたり、色を塗ったりして「ランプシェード」を作っていただき、大きなツリーや、中庭の吹き抜けへ吊るした40メートルほどのモビールへ取り付け、光のオブジェを作る企画です。

入院患者さんやお見舞いの方、病院スタッフがひがし棟9階のディラウンジに集まり、ランプシェードを作りました。当日参加できない患者さんへは、学生が事前に病棟を廻り、材料をお配りしてランプシェードを作っていました。

中庭に組み立てられたオブジェにたくさんのランプシェードが取り付けられ、ひがし棟各階の窓から眺めることができます。ランプが点灯すると、中庭が患者さんの作ったアート「光の樹」で輝き、癒しの空間として生まれ変わりました。皆で一つのものを作り上げることで、患者さん同士の一体感も高まったとの声も聞かれました。



ランプシェードで装飾されたオブジェ



ひがし棟9階でのランプシェード制作

Information インフォメーション

●●● 乳がん患者さんのための学習会 ●●●

平成23年2月23日(水)14:30~16:00

第52回 乳がん患者さんとご家族のための学習会・懇親会

場 所：千葉大学病院3階第3講堂

テーマ：「心のケア～ストレスマネジメント」

参加費：300円(お茶・菓子代含)

第52回目のテーマは、心のケアです。不安なことや心配事で眠れなかったり、いろいろなことが楽しくなくなったりされていませんか? “乳がん”と上手につきあっていくことが難しく思えてきた方、心の健康に興味のある方、ストレスについて一緒に考えてみませんか? お話のあとの懇親会へも是非御参加下さい。ご家族の方や乳がんに関心のある方も大歓迎です。(申込不要)

お問い合わせ：043-222-7171(代表) 乳がん看護認定看護師 大野朋加



F R E E

〈フリートーク〉

T A L K

【プロフィール】

●昭和39年1月、千葉市出身。幼稚園から大学院まで学校はすべて千葉市内、診療放射線技師として千葉大学医学部附属病院に勤務。妻と娘（高1）とトイプードル（12歳）の3人プラス「ワン」家族。最近の信条は「夢は自分で実現する現実のもの」、ずっと思い続けていれば、いずれ道は開けてくる。趣味はユーザー歴20年のMacと庭いじり。平成22年12月1日、診療放射線技師長に就任。

診療放射線技師の仕事というと、一般の方は肺や乳腺のレントゲン撮影、あるいは胃のバリウム検査などを想像されるのではないのでしょうか。しかし、それはほんの一部でしかなく、私たちの仕事は想像できないほど多種多様で、高度な知識と技術が必要とされています。千葉大病院で行われている検査、治療だけでもX線CT検査から血管造影検査、MRI検査、核医学検査、放射線治療、画像情報処理管理などと細分化されています。また、それだけでなく、検査の装置は7、8年のサイクルで機械が入替わるため、他の医療の現場も同様ですが、常に新しい知識を吸収していかなければなりません。ちなみに平成22年にMRI検査や核医学検査、放射線治療における最新鋭の装置が導入され、すでに稼働しています。なかでも放射線治療の装置は、今まで以上に多方向からの照射が可能になったことから正常な組織を守りながら、より高精度で細やかな治療が可能となりました。

私たち診療放射線技師は、放射線や画像診断装置を取り扱うプロ集団です。患者さんに対して安全に放射線を照射するといった義務があり、高いプロ意識を持って仕事をしています。また千葉大病院の診療

放射線における新しい検査と治療技術の開発が夢

診療放射線技師の仕事は
いまや多種多様



千葉大学医学部附属病院
放射線部 診療放射線技師長
梶田 ますた 喜正 よしただ

放射線技師は常に勉強する意欲を持ち、各種の専門資格取得や学会発表なども積極的にを行っています。

週末の庭いじりで気持ちをリセット

現在の仕事に就くきっかけとなったのは、高校時代、看護師を目指す現在の妻に出会ったからです。彼女に触発され、同じ医療の道を模索していたのですが、工学や機械が好きで自分の資質を考え、診療放射線技師という仕事を選びました。

診療放射線技師歴25年のうち約20年間は、MRI検査の現場で働いてきましたが、もっと深い知識を得たいと平成22年9月までの3年間、社会人大学院生として、工学の研究を行っている千葉大学のフロンティアメディカル工学研究センターに通っていました。日中は診療放射線技師として働き、夜は論文や研究と忙しい毎日でしたが、とにかく楽しかった。この院生時代にコンピュータで4DのMRIをプログラミングすることに成功して、千葉大学から「優秀発明賞」をいただきました。この経験を活かし、放射線部とフロンティアメディカル工学研究開発センターとの連携を強化して、新しい検査、治療技術の開発を行っていききたいというのが目下の夢です。

診療放射線技師は天職ですが、やはり仕事には緊張の連続。週末はなるべく仕事のことを忘れるようにして、のんびりと庭いじりをしています。小さなスペースですが季節の野菜を作ったり、大好きなバラの手入れをしたりと、土や草木に触れてリフレッシュ。気持ちをリセットすることが、仕事を充実させるコツかもしれませんね。

トピックス



今年のスギ花粉症対策

今年はスギ花粉の飛散量が多いことが危惧されています。スギの花粉を作る雄花は夏に成長しますが、昨夏の猛暑が雄花の成長に適した環境であったこと、昨年のスギ花粉飛散量が少なかったことも雄花の成長を助長したと考えられています。千葉ではスギ花粉飛散量は平年より多く、一方飛散開始は、11月の気温が高く、冬眠に入るのが遅れたため2月中旬とやや遅く、その分飛散開始後短期間で飛散ピークがみられるのではと考えられます。しかし、今後の天候により大きく変わる可能性もあります。もちろん、花粉の飛散量が前年の3倍になれば、症状が3倍に強くなるとは限りませんが、花粉の飛散量が増えると症状が強くなるのが多く、新たに発症する患者さんが増えることも確認されています。特に、毎年花粉症に苦しんでいる方は、症状が非常に軽い時から治療を開始して、重症化して鼻の粘膜の過敏性が亢進してしまうのを防ぐ必要があります。発症の経験が無い方もくしゃみ・鼻水や目のかゆみが続くときは花粉症を疑って早期に診察を受けましょう。

(耳鼻咽喉・頭頸部外科 岡本美孝)

あとがき

私が千葉大学に採用されたのは、昭和44年の大学紛争真っ只中、とても仕事にならなかったことを思い出す。そして、大学病院に初めて勤務したのが、今の病院に移転した昭和53年。それから30年後にまた病院にお世話になり、そして今年、病院を最後に定年を迎える。あっという間の42年間でした。

今病院は再開発の途中、平成20年からひがし棟の開院、みなみ棟の改修と続き、にし棟の改修が平成23年3月に終了予定。その後新外来棟の建設、旧外来棟の改修、そして最後には新中央診療棟の建設が予定されています。残念ながら、私は新しい事務室で勤務することはないが、外から見守って行きたいと思います。

これから、一段と寒くなる季節ですが、風邪などひかないよう「うがい」、「手洗い」の励行を怠らないようにしたいものです。

(医事課医療支援室長 宇井 明)

鼻 15
あしき

千葉氏の本拠地・千葉城 その②

中世千葉の豪族である千葉氏の居館がどこにあったかについては、長く猪鼻城跡と考えられてきました。その場所は、千葉の市街を見下ろす標高約二十メートルの天守閣を模した建物の千葉市立郷土博物館として親しまれている台地上です。

近年、中世の城郭に関する研究が進み、このような台地上に鎌倉時代に館が作られることはあまりなかったことが明らかになってきて、猪鼻城跡は千葉氏の館だったのだろうかということが論議されています。



郷土博物館の手前に今も残る土塁。千葉城の数少ない遺構の一つ